

医療のネットワーク

松浦 俊博

最近、地域の医療機関の世話になる機会が多くなった。我が家の近くの総合病院に、月に一度くらい妻と一緒に歩いて通う。最初に地下にある検査室に向かう。ここで血液検査やX線検査などを済ませる。検査項目は前回の診察時に担当医から検査室に連絡が入っている。検査時間は一〇分か一五分程度。それから受付に行き、問診事項のインプットと血圧測定を済ませて診察の順番を待つ。

表示板には担当医ごとに患者の受付番号が表示されており、自分の順番が来ると診察室に入る。医師が採れたての検査結果について説明して診察を始める。検査結果をもとに診察が行われることは、三〇年ほど前と変わらないが、最近検査が終わって一時間以内に検査結果がアップされて診察が始まる。この手際の良さは素晴らしい。診察が終わったら、会計に行き診察券を読み込ませれば確認が終わり、あとは自動支払機で会計を済ませる。病院内のネットワークはよくできていると感心する。残念ながら薬局はこのシステムに組み込まれていないので、病院外の薬局では待たされる。

我が家の掛かりつけ医についてもネットワークシステムは改善されている。診察にMRIやCT検査結果を要する場合もあるが彼の医院には設備がない。彼から駅の近くの検査専門クリニックに連絡を入れてもらい、検査指示書を持って行くと、当日でも検査をしてくれる。画像データはCDにコピーされて彼に郵送されるので二日ほど遅れるがそれほど不便は感じない。検査専門クリニックと、地域の医院のネットワークは大変便利だ。こういうシステムは企業では以前から使われていた。医療関係では遅れているように思えるが今からでも真剣に取り組んでほしい。検査データを個人情報保護対策して病院や地域の医院で共有すれば、さらに広げて全国で共有できれば効率の良い医療が受けられる。

また、医療はプロセスごとに検査・診断・治療に分けたほうが良いかもしれない。それぞれの過程でロボットやAIを活用し、それらがネットワークで繋がれば、医師不足解消や医療費低減に役立つと思える。